

# 千住宿と神社を巡るコース

千住宿は日光街道及び奥州街道の初宿で、江戸四宿の一つ。宿場町の風情を求めて旧日光街道を歩き、神社巡りをしてみてもいい？



**①松尾芭蕉像 (B-2)**  
まつお ばしょうぞう  
元禄2年(1689)3月27日、松尾芭蕉は、千住の地から奥の細道の旅へと出立し、矢立初めの句「行春や鳥啼き魚の目は泪」を詠みました。この松尾芭蕉像は、彫刻家平野千里氏により制作され、奥の細道千住あらかわサミットが開催された平成27年3月に矢立初めの地千住を象徴する像として建立されました。【荒川区南千住 4-5】



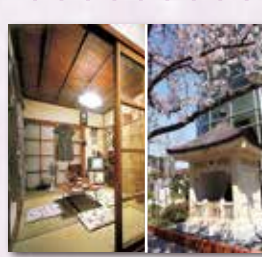
**②延命寺・小塚原刑場跡 (B-2)**  
えんめいじ こづかばらいけいじょうあと  
品川の鈴ヶ森刑場と並ぶ江戸の刑場で、明治時代初めに廃止されるまで、磔(はりつけ)・斬首などが執行されていました。「小塚原の首切地蔵」(荒川区指定有形文化財<歴史資料>)が、江戸の刑死者をはじめとする無縁の霊を静かに見守っています。【荒川区南千住 2-34-5】



**③回向院 (B-2)**  
えこういん  
吉田松陰・橋本左内ら幕末の志士の墓や、鼠小僧次郎吉・片岡直次郎・高橋お伝らの墓があります。杉田玄白や前野良沢らがここでの刑死者の解剖見学をきっかけに「解体新書」を翻訳したことから、近代医学発祥の地として観識記念碑が建てられました。【荒川区南千住 5-33-13】



**④素盞雄神社・矢立初めの句碑 (B-2)**  
すさのおじんじや やたははじめのくひ  
荒川区内で最も広い氏子域をもつ鎮守です。6月の天王祭では、担ぎ棒2本のみで屋根の鳳凰が地面につくほど神輿を左右に激しく揺る勇壮な二天の神輿振りが特徴です。また、江戸時代文政3年(1820)に、南北の千住宿の文人らによって建てられた、松尾芭蕉の奥の細道矢立初めの句を刻んだ句碑(荒川区指定有形文化財<歴史資料>)があります。芭蕉流立ちの弥生末末には、芭蕉の偉業を称え、郷土の歴史継承と俳句文化興隆を願い、奥の細道矢立初め全国俳句大会が開催され、多くの参加者で賑わいます。【荒川区南千住 6-60-1】



**⑤荒川ふるさと文化館 (B-2)**  
あらかわ ふんか かん  
荒川区の博物館。荒川区の歴史・文化を楽しくながら学び、探求できます。昭和41年の復元家屋が人気です。また、松尾芭蕉・曾良像や回向院にあった「橋本左内の墓旧套堂」があります。☎03-3807-9234 入館料/100円 開館時間/9:30~17:00(入館は~16:30) 休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)【荒川区南千住 6-63-1】



**⑥日枝神社・山王清兵衛 (B-2)**  
ひえじんじや さんおう せいへい  
日枝神社は、江戸時代山王社とよばれた旧千住宿中村町の鎮守です。神社の参道入り口にあたる旧砂尾堤土手の北端に、歯痛に耐え切れず、この地で切腹した清兵衛という武士を祀った小祠があります。以来、歯痛に悩む人々が祈願し、効果があれば、鎧をくわえた婦人の絵馬を奉納するようになったといわれています。【荒川区南千住 7-23】



**⑦熊野神社 (B-2)**  
くまの じんじや  
永承5年(1050)に、奥州攻めに向かっていた源義家が荒川(現隅田川)の渡河を祈願し、熊野の御幣を祀ったのが始まりと伝えられています。千住大橋を荒川に架ける時、関東郡代伊奈備前守忠次は当社に成就を祈願し、文禄3年(1594)橋の完成にあたり、その残材で社殿の修理を行いました。以後、千住大橋の守護神として祀られ、橋の架け替えごとの祈願と社殿修理が慣例になったといわれています。【荒川区南千住 6-70】



**⑧足立市場・芭蕉像 (B-2)**  
あだち しじょう ばしょうぞう  
千住大橋駅から徒歩5分のところにある都内唯一の水産専門市場です。一部の店舗では、一般の人でも買物をする事ができ、正門詰所には、見学者用のしおりもあります。市場内の食堂などにも、自由に入れます。(休日:日曜・祝日・一部の水曜)市場の入口横には、芭蕉像があります。【足立区千住橋戸町 50】



**⑨千住宿歴史プラザ (B-2)**  
せんじゆじゆれきし  
横山家の土蔵を復元し、区民ギャラリーと(B-2)して無料で貸し出しています。一般展示のほか「やっちゃん展」などにあわせて開催していて、天保元年(1830年)に建築された木骨土蔵造りの内部が見学可能です。☎03-3880-5188(足立区みどり推進課) 入館料・使用料/無料 開館日時・展示内容 通常:土・日・祝10時~16時 ※詳細は足立区 HP にてご確認ください【足立区千住河原町 21-11】(京成本線千住大橋駅徒歩3分)



**⑩大橋眼科 (A-2)**  
おおはし がんか  
時代を感じさせるドイツ風の建物です。元の建物は1900年代初期のもので、現在のこの形に立て直されたのは、1982年です。【足立区千住 3-31】 ※見学は外観のみ



**⑪千住宿本陣跡・見番横丁 (A-2)**  
せんじゆじゆくほんじんあと けんばんよこちよう  
大名が参勤交代を行う際に宿泊する場所を、本陣といいました。現在の千住三丁目にあり、今は、路地裏にその当時から物語った説明板があるのみ。また、この説明板のある路地を、見番横丁といえます。ちようど路の中程の二丁目側に、かつて見番(差者が所属し、客席への取次ぎや精算を行う事務所)があったからです。【足立区千住 3-33】



**⑫案内所「千住 街の駅」 (A-2)**  
あんないしょ せんじゆ まち えき  
千住の宿場町通りに、元魚屋さんの店舗を利用して、レトロな雰囲気をかもし出す、お休み処「千住 街の駅」があります。街歩きに役立つマップや、足立区を知ることでできるパネル展示などがあります。☎080-6630-8037 開館時間/9:00~17:00(1月1~3日は10:00~16:00) 休館日/火曜日(祝日と1月1~3日を除く)12月29~31日【足立区千住 3-69】



**⑬絵馬屋・吉田家 (A-2)**  
えま や よしだけ  
江戸時代後期から際物問屋として、絵馬・地口絵紙・凧などを描いてきた、当代で8代目という老舗吉田家。東京で数少ない手描きの絵馬屋です。【足立区千住 4-15-8】 ※見学は外観のみ



**⑭横山家住宅 (A-2)**  
よこやま けしゆうたく  
旧地蔵紙問屋「松屋」横山家の家屋は江戸時代後期の建築で、商家の面影を今に伝えています。庇の柱に残っている傷痕は、官軍と戦った彰義隊士が刀で斬りつけたものと伝えられています。【足立区千住 4-28-1】 ※見学は外観のみ



**⑮虹の広場 (A-2)**  
にじ ひろば  
「虹の広場」は虹模様カラーブロックが目印です。河川敷トイレの壁に七色の虹が描かれ、周囲には季節の花々が咲き、訪れた人々を迎えてくれます。また、区民まつりなど、大型イベントの開催場所でもあります。【足立区千住五丁目地先】



**⑯名倉医院 (A-3)**  
なぐら いん  
1770年頃から、柔術などを教えながら骨接ぎを手がけていた、千住名倉医院。入口は長屋門で、江戸時代の名残があります。【足立区千住 5-22-1】 ※見学は外観のみ

# 水辺と公園を巡るコース

隅田川や荒川近くには多くの公園があり、季節折々の美しい草花を眺めながら、日常と違う癒しの時間を過ごせます。



**①3年B組金八先生ロケ地 (荒川土手) (A-3)**  
ねん くみ きんぱせんせい ち  
「金八先生」といえばここ、というロケ地。日ノ出町から柳原にかけての荒川土手周辺は、オープニングなどで登場します。【足立区柳原一丁目から二丁目地先】



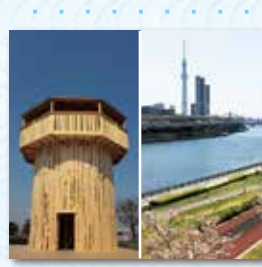
**②柳原千草園 (A-3)**  
やなぎはらちんぐさえん  
樹木に囲まれた園内では、四季折々の花や紅葉などの自然を楽しむことができます。春: サクラ類数種、ナンジャモンジャ、スイセン、ハナイカダ 夏: アメリカテイゴ、アジサイ、シャクナゲ 秋: ハギ、ヒガンバナ、カエデ類数種【足立区柳原 1-21-26】



**③千住大川端公園 (B-3)**  
せんじゆ おおかわはたごうえん  
堀切橋から墨堤通りの交差点を抜け隅田川に向かって、川面に沿って千住大川端公園があります。正面に東京スカイツリーを望みながら、隅田川をながめてのんびりと過ごすことができます。4月中旬から下旬にかけて、赤・薄桃・白のツツジが、鮮やかに斜面を覆います。【足立区千住曙町 41-10】



**④都立汐入公園 (B-3)**  
とっとりしおいりこうえん  
瑞光橋から水神大橋、そして千住汐入大橋の先まで、スーパー堤防の上に隅田川に沿った形で造られた12.9haの公園です。公園の南側は、テニスコートなどの運動施設、バーベキューができる広場があり、北側は広い芝生広場を中心に、野外ステージ、展望広場などが整っています。隅田川沿いの園路は、ジョギング・散歩コースにもなっています。【荒川区南千住 8-13 ~ 16】



**⑤汐入タワー (B-3)**  
しおいり  
都立汐入公園内には、アーティスト・川俣正氏が「東京インプログレス」アートプロジェクトの一環として建築した、木造の塔・汐入タワーがあります。塔の上部からは、隅田川や東京スカイツリー、汐入の街や対岸の足立区・墨田区の街の景色が見渡せます。利用時間/夏期(4~9月)9:00~17:00、冬期(10~3月)9:00~16:00 ※夜間施設【荒川区南千住 八丁目】



**⑥瑞光橋公園 (B-3)**  
すいこうはしこうえん  
隅田川の入り江とスーパー堤防を利用して造った公園です。かつて汐入地区には、運河がありました。その時活躍した水門の一部が、モニュメントとなって残されています。入り江の近くまでいけるテラスで、水辺の生き物などの観察ができます。【荒川区南千住 8-18-1】



**⑦科学技術展示館 (B-3)**  
かがくぎじゆつてんじ かん  
都立産業技術高等専門学校(旧航空工業高等専門学校)にあり、国内でも貴重な重要航空遺産の飛行機やヘリコプターをはじめ、NHKロボコン出場のロボットなどが間近に見られます。年10回程度一般公開しています。公開日以外でも団体で見学を希望する場合は事前にお問い合わせください。☎03-3801-0145 ※詳細は産業技術高等専門学校HPにてご確認ください【荒川区南千住 8-17-1】



**⑧ドナウ通り (B-2)**  
どなうどおり  
オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区と友好都市提携を結んだ記念として、駅前ドナウ広場とドナウ通りが整備されました。春はツツジの開花、秋はモミジバフウの紅葉が美しく、来街者の目を楽しませています。【荒川区南千住四丁目】

## 千住の由来

千住という地名は、戦国時代の末頃から確認できます。千住の由来は『新編武蔵風土記』(1822年)に採録された話で、1327年に新井正次が荒川(現隅田川)から引き上げ、勝専寺にまつられた千手観音に因むという説や、『南足立郡誌』(1916年)に採録された話で、戦国時代の領主千葉氏が住んだことに因むなど、諸説があります。いずれも伝説の域を出ませんが、多くの人々が千住に愛着を持ち、地名に親しんだ証拠です。(『足立風土記』より)

## 千住大橋と千住汐入大橋

◆千住大橋 (せんじゆおおはし)  
徳川家康が江戸に入って、隅田川に初めて架けた橋です。かつては、小塚原天王社(現素盞雄神社)の天王祭の中で、千住大橋綱引きとよばれた神事が行われ、橋の上に綱を渡して、両側の町の人たちが引き合いました。素盞雄神社の境内には、荒川に架かる綱を巻いた千住大橋を模した橋があります。千住宿は江戸の北の玄関口であり、松尾芭蕉もここから奥州へと旅立ちました。歌川広重の「名所江戸百景 千住の大はし」にも描かれています。

◆千住汐入大橋 (せんじゆしおいりおおはし)  
汐入地区と足立区千住曙町を結ぶ千住汐入大橋は、平成18年2月に隅田川に架けられた橋です。橋名は隅田川で最後まで運行され、昭和41年に廃止された渡し船「汐入の渡し」にちなんで名づけられました。ちなみに、幸田露伴は随筆「水の東京」の中で、この辺りから見る仲秋の月の眺めは、東京のどの場所よりも良いとしています。

## 千住地域の年間イベント情報

1月1~7日(通常)	千寿七福神めぐり
1月15・16日	勝専寺えんま開き
2月下旬~4月上旬	素盞雄神社桃まつり
3月下旬	奥の細道矢立初め全国俳句大会(素盞雄神社)
6月上旬	天王祭(素盞雄神社大祭)
7月15・16日	勝専寺えんま開き
7月下旬	足立の花火
10月中旬	あだち区民まつり
10月下旬	JR隅田川駅貨物フェスティバル

## 一般財団法人 足立区観光交流協会が発足

平成27年9月、一般財団法人足立区観光交流協会が発足しました。今後は、より魅力的な観光イベントの実施、観光情報の発信を行ってまいります。◆お問い合わせは… 一般財団法人 足立区観光交流協会 Tel: 03-3880-5853

## 荒川区観光ボランティアガイド

●千住地域等を散策したい場合は、ガイドが原則無料でご案内いたします。◆お申し込み、お問い合わせは… 荒川区観光ボランティアガイドの事務局 Tel: 03-3802-3111 (内線461)